

学校保健委員会資料

今年度の健康課題を『けがの応急処置について』と設定し、それに沿った取り組みを進めてきました。

作年は6月に大阪北部地震、西日本豪雨、9月に台風21号、北海道胆振東部地震など大きな自然災害を経験しています。もし災害に遭遇し、けがをした場合、自分でできる初期対応・けがの応急処置について知っておくことは大切なことだと思います。偶然ではありますが、今年度の取り組みは時機にかなった、タイムリーな内容であったと感じています。

最初に、本校の子どもたちのけがの状況について説明します。

表1～3は（平成29年度）1年間に保健室で対応したけがの処置記録をもとに、学部ごとのけがの内訳を示したグラフです。

けがの内訳を、出血を伴うもの・内出血を伴うもの・自傷によるもの・鼻血・火傷・眼科に分類しています。

出血を伴うけがには、擦過傷・切傷・刺傷・挫傷があります。内出血を伴うけがには、打撲・突き指・捻挫があります。

また、咬み傷・搔き傷・深爪をまとめて、自傷によるけがとして分類しています。

表1は小学部のけがの内訳グラフです。出血を伴うけがが多くその割合が52%を占めています。次に内出血を伴うけが、そして自傷によるものと続きます。中学部・高等部と比較して出血を伴うけがの割合が多いのが特徴です。

表4～6は、平成25年度の大阪市立の小学校・中学校・高校のけがの処置記録をもとにしたグラフです。

本校との比較のために、けがの内訳を同じにして分類しています。比べてみると、一般校の小学校も本校の小学部と同じ特徴を示し、中学校・高校と比べて、出血を伴うけがが多いことがわかります。活動量があがるにつれ、擦過傷などの出血を伴うけがより、捻挫などの内出血を伴うけがに移行していくのではないのでしょうか。

また、本校の特徴としては、自傷によるけがが大きな割合を占めています。自分自身の思いが表現できない苛立ちやこころの安定を図るために自傷行為におよぶことは周知のことです。さらに小学部と比べ、中・高等部では、自傷によるけがの割合が増えています。学年が進むに連れストレスが増え、自傷によるけがが増えるのではないのでしょうか。

自傷のけがを少なくすることは、他のけがと違い、様々な要因が係っていますので難しいと思います。ただ、自傷のけがも、出血を伴うもの、内出血を伴うものに分類することができ、それぞれのけがに応じた適切な応急処置を行うことはできます。自分でけがの手当てができない場合でも、近くにいる者が適切な手当てを身に付けることは大切なことだと思います。

表1

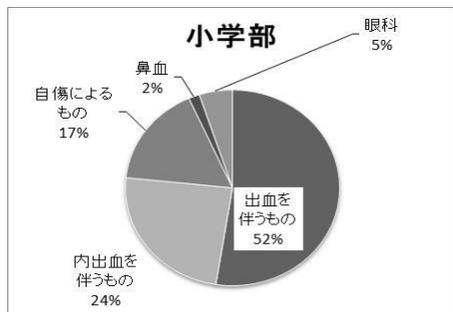


表2

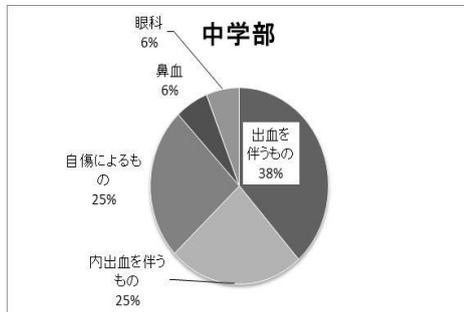


表3

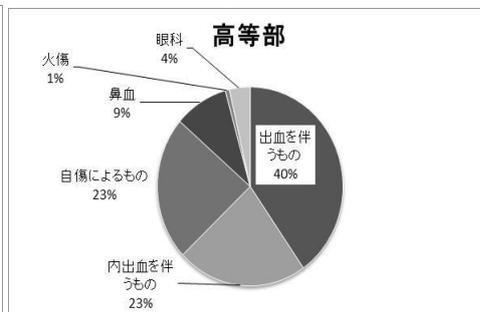


表4

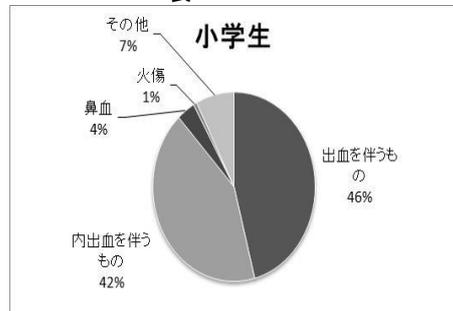


表5

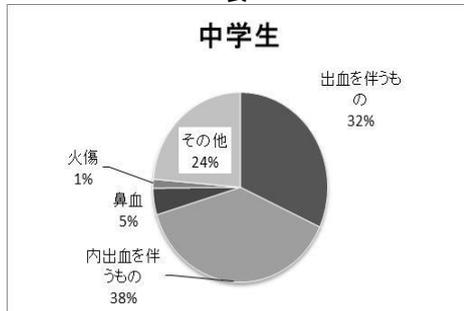
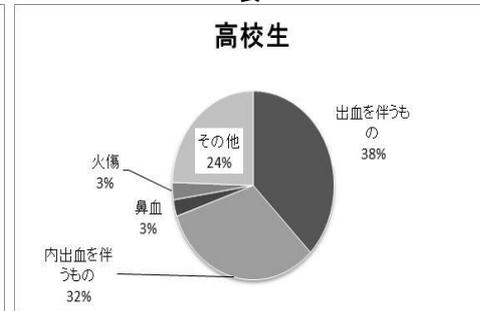


表6



次に、今年度のけがの応急処置についての取り組みです。

1. 掲示物による保健指導の実施

9月に保健室前の掲示板に、けが（すりきず・きりきず・鼻血・ねんざ）の応急処置の方法についてと、けがの手当ての基本のRICEについて、手にとって遊んで学べるように立体型の掲示物として展示しました。

2. けんこうタイムの実施

けがの応急処置をテーマにDVDを作成し、お昼休みに放映しました。

DVDの構成は、子どもたちがテーマに沿った問題をクイズ形式で出しみんなで考えて答え、学校内科校医の先生が解説するというものです。

けんこうタイム問題

第1問:運動場でこけて、ひざをすりむいてしまった。砂がついていたが、血が出ていたので、すぐにばんそうこうをはった。○か×、どちらでしょうか。

答え:×

第2問:ボールが指に当たり、つき指してしまった。氷と水を入れたビニール袋で冷やした。○か×、どちらでしょうか。

答え:○

第3問:熱いお湯が手にかかり、水ぶくれができた。あまりに熱かったので直接氷をあてた。○か×、どちらでしょうか。

答え:×

第4問:鼻血が急に出てきたので、あごを引いて鼻をしっかりとつまんだ。○か×、どちらでしょうか。

答え:○

第5問:目にごみが入ったので、取ろうとしてこすってみた。○か×、どちらでしょうか。

答え:×